

これからの川崎市の 部活動の方向性

今後の部活動の在り方の方向性を考えるに当たって



最終的な獲得目標

二項対立に陥りがちな部活動の方向性について **部活動**
の主体である生徒自身が意見を出す

生徒から出された意見を基に指針を策定する。

意見聴取の方向性

STEP1 様々な意見を聞く

R5.11月のアンケートで

実施済



川崎市立学校の部活動に係るアンケート

STEP2 生徒同士で対話を行い意見を集約する

学校(52校)ごとに、STEP1で実施したアンケート結果と学校事情を参考にしながら、部活動の現状を踏まえた上で、各学校が考える「今後の部活動の在り方」について対話を行い、意見を取りまとめる。



(各学校) 今後の部活動の在り方

STEP2での
獲得目標

全ての中学校において、生徒が多様な意見を踏まえ、今後の部活動について意見を出す

STEP3 代表生徒が今後の部活動に対する提言をまとめる

STEP2で各学校においてまとめた意見をもとに、生徒の代表メンバーで更に対話を重ねながら、今後の部活動の在り方を取りまとめる。なお、取りまとめに当たっては代表生徒と懇談会等の委員が対話することも想定している。

その後、生徒からの提言の内容を踏まえて「部活動指針」を策定する。



(仮) 川崎のミライの
部活動プロジェクト

代表生徒による
会議です

今後の部活動の
在り方提言

STEP3での
獲得目標

代表生徒が、全市から出た意見を踏まえ、今後の部活動の在り方を話し合っまとめる

部活動指針

具体的な方向性

STEP1

様々な意見を聞く

実施済

STEP1については、令和5年11月の「川崎市立学校の部活動に係るアンケート」で**実施済**
実施結果は次のとおり

1 アンケートの概要

- 実施期間 令和5年11月16日（木）から12月8日（金）まで
- 対象 市立中学校の全生徒（29,832人）

2 実施の状況

対象者数（人）	回答者数（人）	回答率（％）
29,832	23,395	78%

参考 令和5年度における市立中学生生徒の部活動入部率：84％

3 回答者の年代

中学1年生	中学2年生	中学3年生
35%	33%	32%

主な結果

- 生徒は約9割が部活動を「楽しい」と感じている。
- 生徒はより「楽しい」部活動を志向する層と現状の部活動を肯定する層が拮抗
- 生徒の約半数が部活動と勉強の両立に困っている。
- 生徒の約7割が部活動を通じて体力・技能が向上したと感じている。

具体的な方向性 **STEP2** 生徒同士で対話を行い意見を集約する

実施済

STEP2での 獲得目標

全ての中学校において、生徒が多様な意見を踏まえ、今後の部活動について意見を出す

- ・アンケートから得られた多様な意見をもとに、全市立**中学校(52校)**の**生徒評議会等**において生徒達が対話
- ・意見をもとに、各中学校ごとの「今後の部活動の在り方」についての意見を取りまとめる。

全ての市立中学校から生徒の意見が集約される。

生徒評議会等 とは

各学校に存在する、部活動や学級委員、委員会、生徒会などの長や役員が集い、各種諸課題の解決や生徒活動に関する種々の計画、その実施の審議などを行う機関
※学校によって名称は異なる。

出典：文部科学省中学校学習指導要領解説 特別活動編

期待される 効果

- ① 各学校の部活動の運営状況を踏まえ、様々な立場を代表する生徒が、**それぞれの組織の代表という立場**で述べ合うことにより、多様な意見が出てくる。
- ② 様々な立場から物事を判断し、**折合いをつけながら合意形成を図ることで、生徒自らが諸課題を自分事として感じ、解決方法を考えて実践することで、生徒自らが自身の活動でなされた**という実感を持つことができる。
- ③ 各代表が対話したことをそれぞれの所属に持ち帰り、共有することで、**部活動の課題や学校としての意見を広く生徒に広める**ことができる。

具体的な方向性 **STEP2** 生徒同士で対話を行い意見を集約する

**STEP2での
獲得目標**

全ての中学校において、生徒が多様な意見を踏まえ、今後の部活動について意見を出す

実施イメージの例

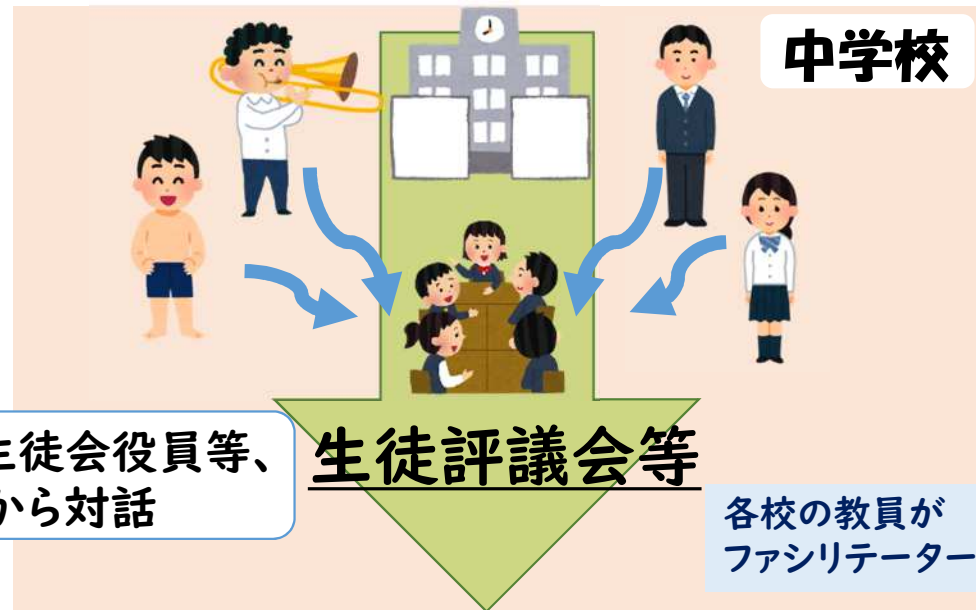
教育委員会事務局

教員・生徒には、趣旨や対話の資料などをスライド動画等で事前に説明

➡全校が、同じ理解のもと、対話を行うことができるように工夫



学校ごとに、アンケート結果と学校事情を参考にしながら、部活動の現状を踏まえた対話



部活動の部長、生徒会役員等、それぞれの立場から対話

各校の教員がファシリテーター役となり実施

各学校で今後の部活動の在り方をまとめる

【参考】 STEP2 学校での対話の進め方（イメージ）

STEP2での 獲得目標

全ての中学校において、生徒が多様な意見を踏まえ、
今後の部活動について意見を出す

教育委員会事務局から
学校へ説明

➡ 趣旨や進め方、対話の内容などについて説明した動画を作成し、対話の前に
視聴することにより全校が、同じ理解のもと、対話を行えるように工夫

対話の趣旨等を
説明

➡ ※対話の進め方

- ①導入として、「部活動って何のためにやってる？」をテーマに意見を言う。
- ②今後の部活動の在り方について、多様な意見を踏まえた解決策を話し合う。

生徒の立場（例）

- ・真実にやりたい
- ・ゆるく気軽にやりたい

etc

保護者の立場（例）

- ・子供が楽しければよい
- ・疲労や勉強への影響が心配

etc

先生の立場（例）

- ・もっと指導をしたい
- ・忙しいので指導はしたくない

etc

テーマごとに対話

話し合うテーマは
次ページ

生徒が主体的に解決策を話し合う

今後の部活動の在り方を
取りまとめる

〇〇中学校では
こんな意見が出ました

STEP3へ

➡ 生徒の意見は各学校ごとに教育委員会事務局に提出される。

生徒評議会等

【参考】 STEP2 話合いのテーマ

①導入として、「部活動って何のためにやってる？」をテーマに意見を言う。

②今後の部活動の在り方について、生徒・保護者・教員それぞれ立場を考えながら、多様な意見を踏まえた解決策を話し合う。

話合いのテーマ（例）	想定される意見
部活動のどんなところが楽しい？	- 好きなことを仲間と一緒に活動できるから楽しい。 - 頑張ると成果が出たりそれを応援してもらえたりするのが楽しい。
どんな部活動なら入部したいか？ （部活動の意義、指導者、運営方法に関する意見が期待できる。）	- 技術や体力を高めたいから専門的な指導も受けられるとよい。 「気軽に楽しく」と「勝つことを目指す」人がそれぞれにやれる環境があるとよい。
今後生徒数が減少することが想定されるが、持続可能な部活動にするためにはどうしたらよいか？ それに伴って外部指導者が指導することについて何を求めるか？ （合同部活動等持続可能な部活動の在り方、外部指導者の導入方法についての意見が期待できる。）	- 隣の学校と一緒に部活動ができれば試合にも出られるのでよい。 - 地域で学校にない部活動ができるとよい。 - 指導者が選べるのに加えて、先生の負担軽減になればよい。

【参考】 **STEP2** 話合いの様子



具体的な方向性 **STEP3** 代表生徒が今後の部活動に対する提言をまとめる

STEP3での 獲得目標

代表生徒が、全市から出た意見を踏まえ、今後の部活動の在り方を話し合っまとめる

・全中学校の中から代表メンバー（生徒）を選出し、STEP2で各中学校から出された意見（解決策）をもとに「（仮）川崎のミライの部活動プロジェクト」を開催し、**今後の部活動の在り方をまとめる**（1～2回程度）。

・代表メンバーは各校から出された意見を**提言で示すカテゴリーに整理**し、対話しながら、意見をまとめていく。

・会議では代表メンバーのグループと懇談会等の委員で対話を行うことも想定している。

✓ 各校の意見から全市の意見へと集約する過程に生徒が参加することで、**最終案まで生徒の意見を反映させることができる。**

➡生徒がまとめたものを市に提言することで、“生徒がまとめたもの”としてアピール



✓ その後、教育委員会事務局は、**生徒からの提言をもとに**、懇談会等での意見聴取を踏まえ、「**部活動指針**」を策定する。

【参考】 STEP3 代表生徒による対話の進め方（イメージ）

STEP3での 獲得目標

代表生徒が、全市から出た意見を踏まえ、今後の部活動の在り方を話し合ってみる

実施イメージ



実施スケジュール

12

	令和7年										令和8年		
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
教育委員会事務局	STEP2 対話	各学校の在り方取りまとめ		STEP3の会議資料作成 学校へ説明				考え方作成	指針の作成				
									学校へ説明			学校へ説明	
学校	卒業式												
懇談会	第4回開催(3月)												
代表者会議													

指針策定